

## 五重塔の巻

古都の町並みを代表するものといえば、まず思い浮かべるのは五重塔ではないでしょうか。夕暮れの町並にそびえたたずむ塔の姿は、いかにも古都！という風情が感じられ、象徴的なものとしての存在感は抜群ですね。ところでこの五重塔、元を正せば、地・水・火・風・空の五大にかたどって、五層に造った仏舎利をまつる塔のことで、簡単に言うと、釈迦のお墓なのですね。今も、お墓の脇に立てる「卒塔婆（そとば・ストウーパ）」というものがあり、これが「塔」の語源にもなっているのですが、その大規模なものであると思ってもらえばいいでしょう。



ただ、五重塔は、単なる墓標の域を越え、芸術としての建築美を追求したものであると同時に、現代においては耐震設計の模範となるなど、建立当時の工人達の最先端技術の粋を結集・その技術力を内外に示す建築物となっています。2012年に墨田区押上に開業した東京スカイツリーには、この五重塔の構造が生かされています。五重塔には他の構造材と接しない“心柱”というものが中心にあり、地震があるときこの心柱が塔本体の揺れとは逆の、揺れを打ち消すような動きをすることで倒壊を防いでいます。スカイツリーでは、タワー本体とは直接つながっていない、内部が避難用の階段室となっている筒状のコンクリート構造物を心柱として据え、地震の揺れとはタイミングをずらすように揺れる質量付加機構と呼ばれる技術を応用した制振構造が採用されています。



\*\*\*\*\*

さて、京都・奈良をはじめ、日本各地にはたくさんの五重塔が立っていますが、その中でも、注目すべき塔をいくつか紹介しておきましょう。

まずは、高さ・大きさで勝負！ですが、日本一高い五重塔は**京都・東寺の塔**で、高さは約 57m。京都駅の新幹線ホームからもよく見えます。高さの二番目は**奈良・興福寺の塔**で 50.8m。猿沢池の畔から柳越しに見る塔は、しっとりとした風情を感じさせます。

次に、歴史で勝負！です。日本で最古の五重塔は、**奈良・法隆寺**にあり、築 1300 年を越えます。



その姿は“日本で一番美しい五重塔”として知られています。なお、塔の“美しさ”というのは、軒の出方、各層の遞減率（上の階に行くほど屋根が小さくなっていくことです。左図参照）のバランス・周囲の景観とのマッチングなどがポイントになります。法隆寺とともに、**京都・醍醐寺**と**山口県・瑠璃光寺**の塔は「日本三大名塔」と呼ばれ、均整の取れた美しい姿が人々の心を魅了しています。

また、特に大きいわけでもそれほど古いわけでもありませんが、東山の八坂通を歩くと見えてくるのが**京都・法観寺、通称「八坂の塔」**です。東山のシンボルともいわれる高さ 46 メートルの塔は、意外と知られていませんが、塔の 2 層目まで一般公開されています。（ちなみに拝観料は 400 円）一見の価値あり、というところでしょうか。